

令和元年度 学校評価・学校関係者評価実施結果報告書

岡山県理容美容専門学校

1. 教育目標

本校は、実践的な理容・美容の職業教育を行い、これからの社会のニーズに対応できる優れた理容師・美容師を養成する理容美容専門学校である。

そのためには、一人一人の学生に基礎技術から専門的な技術・技能・知識の修得が出来るよう教育環境を整え、その中で理容・美容業の厳しさや楽しさなども体得させながら、理容・美容業に誇りを持った学生の育成に努めなければならない。そして、何より、理容・美容業がお客様に満足してもらえ技術とサービスを提供する業であることを認識させなければならない。

そこで、本校では従来から次の教育目標を掲げている。

- ・誠意----すべてのお客様に対して、真心を持って接することができるよう、日常において接客の心構えを持たせる。
- ・熱意----いかなる時でもお客様が満足できる結果が得られるよう、一生懸命頑張れる精神力を養う。
- ・創意----お客様に満足してもらえ必要な知識、技術、快適な施設や設備など、常日頃からよりよいものを創り出そうとする意識を持たせる。

これらの教育目標は、在学中はもとより理容・美容業に従事する上で、生涯持ち続けてほしいと願っている。

2. 本年度の重点目標と計画

① 国家試験合格体制の強化

理容科は、本年度も全員合格という100%の目標を達成した。本校の理容科受験者数が少ないとはいえ、第31回国家試験から5年連続で全員合格を達成することは高い評価に値する。

また、美容科においても、実技試験100%、筆記試験98.8%という近年ではもっとも高い合格率を達成した。2年連続筆記試験で不合格者が出ているため、なお一層効果ある技術指導と例年以上に筆記試験対策を行っていく。

② 理容・美容実践教育の強化

理容・美容業界と連携し、派遣講師によるヘアカット、着付、アップスタイル、カラーリング等、技術指導の充実を図る。全国理容競技大会(レディースカットパーマスタイル綱)において優勝した本校理容科卒業生の派遣講師による全国トップレベルの技術指導を通して、総合技術の実

実践教育を行っていく。

また、理容所・美容所でのインターンシップを引き続き実施し、現場でのサロンワークを学んでいく。

③ 校外コンクールの支援強化

全国学生技術大会においては、令和元年度 11 月の全国学生技術大会(仙台大会・グランディ 21)に向けて、その競技種目でのレベルアップにあらゆる面から支援を行った。結果として、中国地区予選を通過し全国大会に出場した理容科美容科 14 名のうち理容ワインディング部門で銀賞(準優勝)、クソルバック部門で優秀賞(5位)を受賞し、理容業界と連携しながら支援を強化した成果と考えられる。来年度に向けても、学生には技術的支援、用品等の物的支援などを後援会と協力して行っていく。

現役美容師も多数エントリーする他の校外コンクールにおいて、カット部門で第3位を受賞するという快挙も成し遂げた。

④ 学生支援制度の充実

自宅が遠隔地にあり、本校までの通学が著しく困難な為、アパート等の賃貸住宅に入居する学生に対して、その住宅費の一部を支援する住宅費支援制度も2年目を迎えた。本校の住宅費支援制度の周知もなされてきたようで、入学前から問い合わせも徐々に増加してきている。

⑤ ABE検定資格(まつ毛エクステンション)の取得

学生の就職でアイリストが増加していることに伴い、平成30年度に指導教員を1名増員し今年度からまつ毛エクステンションの検定を実施した。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

番号	評価項目	評価
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1 0
1-2	学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1 0
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1 0
1-4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

本校における職業教育は、これからの多様なニーズに対応した優れた理容師・美容師を養成することである。それには、理容業界・美容業界と連携して実践教育を積極的に行うとともに自立した職業人として社会に貢献できる人材を養成していかなければならない。

② 今後の改善方策

今後ともあらゆる機会を捉えて、保護者等には教育理念・目標・人材育成等の理解や周知を行っていく。

(2) 学校運営

番号	評価項目	評価
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1 0
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1 0
2-3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか	④ 3 2 1 0
2-4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	④ 3 2 1 0
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1 0
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1 0
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1 0
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

例年通り令和元年度の学校運営方針は、前年度末の学園理事会において運営方針と事業計画が決定された。その後、職員会議において教職員に示されている。

また、諸規定(就業規則・給与規定等)も時代に適応した内容で整えられてきた。教務における意思決定システムでは、教務規則に基づき学年会議、職員会議等を実施し学生指導等を行っているが、なお一層の共通理解と情報共有が求められる。

② 今後の改善方策

本校周辺は、飲食店、コンビニ、パチンコ店や主要道の県道児島線が有りどちらかといえば賑やかな環境ともいえるが、本校から少し離れた学生専用駐車場は、近隣にマンションなどの住宅地となっており、地域社会等に対するコンプライアンスとして、通学時における騒音、ごみ、交通事故や近隣施設での無断駐車、あるいは自転車通学のマナーなど、今後も交通法規の遵守に力を入れていく。

また、地域住民との挨拶、近隣清掃、子どもや高齢者へのいたわりなど、本校を取り囲む地域社会との共生及び社会の一員としての自覚を持たせていく。

(3) 教育活動

番号	評価項目	評価
3-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1 0
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1 0
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1 0
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1 0
3-5	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置付けられているか	④ 3 2 1 0

3-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1 0
3-7	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1 0
3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1 0
3-9	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1 0
3-10	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1 0
3-11	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1 0
3-12	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

教職員の資質向上を目的とした能力開発の研修等については、職業実践専門課程の認定要件の一つになっており、本校は以前からこの必要性を認識し技術分野や教養分野など多方面にわたり教職員の研修に力を注いできた。

とりわけ職業実践専門課程では①専攻分野における実務に関する研修及び②指導力の修得・向上のための研修が義務付けられており、本校においても令和元年度の研修では理容科においてはコンテスト作品における仕上がりのポイント及び仕上げ方法等、美容科においてはサロンワークでの接遇を含めたコンサルティングの基本等を実施した。

さらに、研修成果を実践教育役立てるため、毎年数名の教員が研究授業を実施し今年度も保健と理容理論の研究授業を実施した。

修得者コースを設置して早2年、本年度は初めての卒業生を送り出し理容・美容とも合格率100%という成果をあげた。入学者数も増加してきており今後Wライセンスの重要性が高まってくると思われる。

② 今後の改善方策

顧客ニーズの多様化により、実習教員は時代に応じた様々な技術や・専門知識の修得が必要である。また、業界が学生に求める技術レベルも高まってきていることから、今まで以上に即戦力として活躍できる理容師美容師育成の為、理容美容業界との連携を深め、業界講師との研修を通じて最新の技術の習得、指導力向上に努めなければならない。

(4) 学修成果

番号	評価項目	評価
4-1	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1 0
4-2	資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1 0
4-3	退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1 0
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

令和元年度3月卒業(昼間課程)の国家試験合格率は理容科が5年連続で100%となった。美容科は国家試験合格率が98.8%で高い資格取得率であった。退学率に関して、美容科においては昨年度の約半分に抑えることができたが、更なる低減を図ることが課題である。

卒業生の活躍について、県内に就職したものに関しては把握をしやすいが、県外で活躍しているものに関しては、その多くが担任を通しての情報収集であることが今後の課題である。

② 今後の改善方策

退学率の低減については例年に比べて大きく改善された。しかしながら、今後もメンタル面を含めた健康面、家庭環境など多岐にわたり悩みを抱えた学生が増えてくると考えられる。昨年同様定期的な個人面談、個別指導を実施しながら学生に寄り添う指導を行うとともに、担任のみならず、職員間で情報を共有し保護者とも密に連携を取り学生が初志貫徹できるよう指導を行うことが求められる。

県外に就職した卒業生の活躍については、就職先との連携を強化するなどしてサロンからも情報が収集できるように努める。

(5) 学生支援

番号	評価項目	評価
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1 0
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-6	学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1 0
5-7	保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1 0
5-8	卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1 0
5-9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1 0

おいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

令和元年度の学生支援では、自宅が遠隔地にあり通学が著しく困難な学生が、賃貸住宅等に入居した場合には、その住宅費の一部を補助する「住宅費支援制度」を平成30年度から設けた。この支援制度も周知されはじめ、全国的に理容科を設定している養成施設の減少に伴い他県からの入学生および県北の入学生が徐々に増加してきている。

保護者との連携については、後援会総会において学校の状況、成績表送付の際に個人の状況をお知らせすることで連携はとっているが更なる連携をとることが今後の課題である。今後も学生アンケートや担任面談を通して、学生からの意見・要望を積極的に聞き、学生が健康で安心して学校生活を過ごせると同時に理容・美容の優れた技術と専門知識の習得に専念できる、支援体制を推し進めていく。

② 今後の改善方策

学生の健康管理体制については、昨年度末に拡大し始めた新型コロナウイルス感染症に重点を置き『うつらず、うつさず、持ち込ませず』をスローガンに学内での感染症対策を徹底して行う。毎日の健康観察、各所の消毒剤の設置、マスク、必要に応じてフェイスシールドの装着を徹底して行い教員は一人一人の体調管理に留意するとともに、生活環境の変化が生じていないか個別面談を通して把握し不安や悩みなど精神面の健康管理にも配慮するよう取り組む。

また、更なる保護者との連携強化に関して、学校で発行しているニュースレターを定期的に配布するなどし学校の現況をお知らせしながら連携体制の再構築を行う。

(6) 教育環境

番号	評価項目	評価
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1 0
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1 0
6-3	防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

教育設備においては、後援会支援のもと空調大規模リニューアルを実施した。

また、各教室等に最新のプロジェクターやスクリーンを設置し、技術映像や資料掲示などができるよう環境整備の充実を行っているが、全教室には至っていないため全教室への設置が課題である。

実践教育の一環として行うインターンシップでは、例年であれば1学年が12月と3月に5日間、2学年で8月に5日間実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で3月実施は見送った。理容所美容所でのサロンワークを体験することにより、職業意識・就労意識の自覚を身に付けさせている。

② 今後の改善方策

防災に関しては、地震、火災を想定した避難訓練を毎年実施しているが、想定外の自然災害の発生にも対応できるように、本校教員からの指導だけでなく、消防署等と連携を図り実体験に基いた指導を取り入れながら、本校学生にはしっかりとした防災意識を高めてほしい。また、教職員の危機管理及び緊急連絡体制を徹底するとともに、万が一に備え情報収集力および即時対応力の強化が求められる。

(7) 学生の受入れ募集

番号	評価項目	評価
7-1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	④ 3 2 1 0
7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1 0

7-3	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	④ 3 2 1 0
7-4	学生納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

令和元年度に文科省から新しく高等教育の修学支援制度（令和2年4月スタート）が示され本校もその対象校となった。よって学生納付金の入学金や授業料減免と給付型奨学金との支援を併せて受けることにより、全体として今までより大きな支援を受けられることを次年度募集要項に記載し広く周知し情報提供を積極的に行っている。

② 今後の改善方策

募集活動では新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら三密を避けながら体験入学等を通して高校生にとって進路決定に役立つ正確な情報提供を行う必要がある。

(8) 財務

番号	評価項目	評価
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1 0
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1 0
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1 0
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

本年度も本校の学園会計を指導する指吸会計センターから、本年度の学園会計は健全であり財政基盤は安定していることの報告を受けた。また、学園監事により学園・学校運営や資金収支においても適正であることの監査報告を受けている。なお、これからもより一層の透明性と健全経営を図っていく所存である。

② 今後の改善方策

少子高齢化により入学者数の減少が見込まれる。すでに近県において募集停止している養成施設もあるようだ。今後とも退学者休学者を低減し授業料収入を中心とする財政基盤の安定と予算の厳格化に努めていく。

(9) 法令の遵守

番号	評価項目	評価
9-1	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1 0
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1 0
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1 0
9-4	自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

例年通り、理容師養成施設指定規則・美容師養成施設指定規則及び専修学校法に基づき適正に運営を行っている。個人情報保護対策ではセキュリティソフトの導入や書類管理の徹底に加え、最新OS搭載のPCへの順次入れ替え、NASの移設などを行った。

学生アンケートを前期・後期に2回実施し、各分類項目の分析を行い問題点の解決をはかった。また、教職員による自己評価の結果に基づいて、学校関係者評価委員会において、客観的評価を得て学校運営の改善を行っている。

② 今後の改善方策

個人情報保護対策のため全PCを最新OS搭載のPCへ入れ替えを行う。

次年度においても関連する業界団体と連携協力し、自己評価での問題点や学校関係者評価での提言を受け入れて、よりよい学校づくりに励んでいきたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

番号	評価項目	評価
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1 0
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

年に2回近隣の地域清掃を行っている。

また、物理的・時間的の許す限り社会貢献・地域貢献や他の教育機関との連携授業並びに施設使用の提供を行っている。

- ・豪雨災害時における緊急避難場所-----岡山市大元学区連合町内会
- ・チャレンジワーク！お仕事体験教室-----岡山市立福田公民館
- ・パラ×コレ(障がい者のファッションショー)-----パラコレ実行委員会
- ・うらじゃ祭り(うらじゃ踊り参加とメイクボランティア)---うらじゃ実行委員会

② 今後の改善方策

引き続き地域清掃を行いながら更なる地域からの信頼獲得に努め、地域に根差した学校となれるよう学生の意識改革を行う。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和元年度の学校運営について、在学者数並びに入学者数は昨年同様順調であり学校運営の安定的基盤を築いている。特に、本年度の募集活動において美容科はほぼ定員充足となった。国家試験では、理容科は全員合格の100%を達成し、美容科も実技試験においては100%であった。学生活動では、学園祭、うらじゃ祭り、パラ×コレなど学生活動も積極的に行われ社会的好評を得た。校外コンクールでは、全国学生技術大会(仙台大会・グランディ21)で、理容科2名が、ライティング部門で銀賞(準優勝)、クラシカルバック部門で優秀賞をそれぞれ受賞し、本校の技術力の高さを見せてくれた。

平成30年7月に岡山県を襲った西日本豪雨災害の影響がまだ続いている為、本校において

も被災者には支援を継続して罹災した在校生及び入学予定者に授業料等の免除を当面実施していく。